

<主要 Q&A>

全社:

Q 2011 年 3 月期第 3 四半期決算の概要は。

A 2011 年 3 月期第 3 四半期決算は、調整後税抜売上高および EBITDA はほぼ横ばい、営業利益については、EBITDA が微減となったものの、国内たばこ事業における自動販売機に係る減価償却費の減少及び一部商標権の償却終了、海外たばこ事業における為替の影響等による減価償却費の減少により、増益となりました。

また経常利益は為替差損の改善および支払利息の減少等により 2 桁増益となり、四半期純利益も、固定資産売却益の減少があったものの増益となりました。

Q 2011 年 3 月期業績予想を上方修正した理由は。

A 2011 年 3 月期の全社業績予想については、売上高・利益指標ともに上方修正いたしました。これは、主に国内たばこ事業において販売数量見込の見直しに伴い、売上高・EBITDA を上方修正したこと、および海外たばこ事業において EBITDA 見込を 10.6%成長へと上方修正したことによるものです。

国内たばこ事業:

Q 4-12 月期の販売数量減少要因は。

A 上期は駆け込み需要影響等が趨勢減や増税アナウンス影響を相殺し、対前年同期比で 10%増となりましたが、10 月増税後は、定価改定の影響で需要減少が起きたことに加え、増税前の駆け込み需要の反動減が発生し、4-12 月期累計では対前年同期比 9.0%の減少となりました。

Q 2011 年 3 月期の販売数量を上方修正した理由は。

A 今後の需要安定レベルを推計することは難しい状況ではありますが、増税・定価改定前後にわたるお客様の購買動向調査結果および足元までの販売動向を踏まえ、価格弾性値の前提と駆け込み需要反動減影響について見直しを行いました。

価格弾性値の前提については、0.7 程度から 0.5 程度へ修正いたしました。この要因による販売数量見込の上方修正は 60 億本程度となります。

また、節煙や禁煙された方の中にも増税前に買い溜めされた方がいた影響を考慮し、駆け込み需要反動減影響を見直しました。この要因による販売数量見込の上方修正は 20 億本です。

この結果、通期の販売数量見込を 80 億本上方修正し、1,335 億本にいたしました。

海外たばこ事業：

Q 2010 年通年の JTI の販売動向は。

A 総販売数量は厳しい事業環境の中、中東、トルコ、フランス等多くの市場で成長モメンタムが継続したものの、総需要減少に伴うロシア、ウクライナ、スペイン、ルーマニアの減少等が大きく影響し 1.5%の減少となりました。一方、GFB 販売数量は、中東での Winston、トルコ、フランスでの Winston/Camel、ポーランドでの LD 等の増加により 2.7%成長となりました。

Q 2010 年通年の JTI の実績は。

A. GFB 販売数量が堅調に成長したことに加え、ロシア、英国、ウクライナ、スペインおよび台湾といった市場における単価上昇効果が主因となり、調整後税抜売上高および EBITDA は、それぞれ 5.6%、10.6%成長となりました。また、為替中立ベースの調整後税抜売上高および EBITDA は、それぞれ 4.8%、7.7%と引き続きプラス成長となりました。